

2025年度第2回神戸市子ども・子育て会議

日時：2025年11月19日（水）13時00分～15時00分
場所：神戸市役所1号館14階大会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 「神戸っ子すこやかプラン2024」の検証について

●事務局

資料1により説明。（省略）

○委員

- ・2歳5か月の双子の親である。自分を含め周りの方の意見を伝えたい。

資料1、11ページ「神戸で子育てして良かったと思うか」の回答で、良かったと思わない理由として、「子育てに適した広さや間取りの住宅供給及び家賃の軽減制度など住宅に関する子育て支援」が2位となっているが、マンション価格の値上がりや、販売されてもすぐ売れてしまう状況などに、自身も困っている。また、住宅の増加にあわせて保育園の拡充もこれから必要ではないかと思う。

- ・「ひょうご多胎ネット」運営者からは、「産後ケアの利用回数が多胎でも単胎でも同じであり、受入れ期間が4か月以内もしくは1歳以内というところが多いが、それを延ばしてほしい」と聞いている。多胎の場合、早産のことが多く、最初の2か月はNICUに入ることになり、家に帰ってきてもあっという間に生後の4か月が過ぎてしまうことが多いので、修正月齢の考えを検討するなど、利用できる期間を延ばしてもらいたい。さらに、多胎の場合、追加の利用料が発生するために利用を我慢する人もいると思われるので、料金設定についても検討してほしい。
- ・単胎、多胎に関わらない要望として、一時保育も産後ケアも、「今困っていてすぐ使いたい」という時に使えないという声が多いので、受け入れ枠を増やしてもらえたと思う。
- ・「子ども誰でも通園制度」については、多胎家庭の優先申込み受付がある福岡市を参考にしてほしい。
- ・子どもが外でボール遊びをしたり、走り回ったり、安心して遊べる公園や広場をもっと増やしてほしい。

●事務局

- ・神戸市は4年連続待機児童ゼロであるが、エリアによって保育の需給がひっ迫しているのは承知している。そのため保育所の整備、小規模保育園の整備も進めてきた。保育のニーズが高い

ところには様子を見ながら整備を進めている。園によっては、幼稚園から認定こども園へ移行し、3号子どもの受け入れも始めているところで、枠も広げていきたい。

●事務局

- ・産後ケア事業について、神戸市では37か所の助産所・医療機関で実施しており、この施設数は年々増加して受け入れ枠の確保に努めている。受け入れ期間については、神戸市では現状1歳までとなっているが、多胎の優先受付や修正月齢の案も検討していきたい。利用料については、多胎の場合、2人目の料金は、宿泊500円、通所300円の実費負担をお願いしている。現在、産後ケアのデジタル化を進めており、12月15日からはオンラインで24時間いつでも予約ができるようになる。

●事務局

- ・子どもの外遊びについては、スマホやゲーム等に夢中になり外で遊ぶ機会が減っていたり、公園でのボール遊びがしづらくなっていたり、夏は暑すぎて外では遊べないなど、多くの課題があると感じている。神戸市では「公園プロジェクト」ということで、例えばバスケットゴールを様々な公園に増設したり、ボール遊びができるよう防球ネットの設置を増やしたりといった取り組みを進めている。また、地域主体の取り組みとして、火起こしやロープ遊びといった、普段の公園ではできないような遊びができる「プレーパーク」を実施し、子どもたちが主体性・創造性を持って遊べる場所もある。このような取り組みや施策について、神戸市としても子どもたちが外で遊ぶ機会が増えるよう、しっかりと取り組んでいきたい。

○委員

- ・街なかで神戸の子育て施策がよくアピールされていると実感している。
- ・資料1の2ページにある、就学前児童の教育・保育施設の利用状況について、2歳と3歳の境目で在宅育児が急激に減っている。私の周りでは、2歳児を預けられる場所が少ないと声が多い。子どもが2歳になって仕事に復帰したい人が、子どもを預けることができずにやむなく育休を延長するという状況が聞かれるが、労働人口の減少からしても復帰したい方には復帰してもらいたい職場の気持ちもあると思う。在宅育児をしたくてしている人数なのか、預けたくても預けられないから仕方なく在宅育児している人数なのかを把握しているか、それとも別のアンケートがあるのか。
- ・子どもの数は減っているので、園の受け入れ年齢を下げていくのか、子ども家庭局としての見通しを教えてほしい。

●事務局

- ・エリアによる需給のひっ迫と同様に年齢によっても需給のひっ迫があり、1～2歳については事業計画でも受け皿をもう少し広げていかなければいけない状況。子どもが1～2歳になったら仕事復帰したいという保育ニーズが増えている。保育所、小規模保育所、認定こども園の拡充をまさに進めているところだが、今後さらに推し進めていく必要がある。

○委員

- ・5歳児では在宅育児が4.5%となっているが、認可外施設に入所させている人や一時保育の利用者も在宅育児に含まれていると思われる。
- ・市外から転居されてくる人に、住宅についての情報提供をされているか。
- ・若い子育て世帯への住宅供給について、住宅価格の高騰や空き家対策も含めて、子育てに適した広さや間取りで、公園や広場があるような公営住宅の再整備を進めてほしい。子育て世代には住宅施策も必要。

●事務局

- ・子育て世帯向けの住宅供給については課題として認識しており、こども家庭局としても建築住宅局と連携して取り組みたい。住宅価格の高騰や世帯規模の縮小などの課題があり、神戸市では、今年度より「良質でちょうどいい戸建て」を供給していくと取り組んでいる。若い世代では戸建てニーズが高くなっている、郊外を中心に点在している低未利用土地の積極的な活用や、市営住宅の再整備、公共施設の跡地を活用した住宅用地の供給に向けた動きも始まったところである。そのほか、今年度より市営住宅の民間賃貸住宅活用も始めている。具体的には、民間事業者が市営住宅のリノベーションを行い、一定期間、若年ファミリー世帯向け賃貸住宅として活用する事業である。
- ・市内に転入される方への情報提供については、「こうべ子育て帳」のデジタル化もしたところであるが、引き続き取り組んでいきたい。

○委員

- ・アンケートの数値が軒並み改善傾向である。「神戸で子育てして良かったと思いますか」に対して9割近くが「とても思う」「思う」と回答があったのは、今までの取り組みの成果であると思う。住みよい子育てしやすいまち神戸であることが、企業の人集めのポイントにもなっているので、これからももっとアピールしてほしい。改善してほしい課題についても、できるところから対応して地域活性につなげてほしい。

○委員

- ・里親制度では、里親が子どもを他の里親や施設に一時的に預けてリフレッシュしたいときに利用出来るレスパイクケアという制度がある。
- ・資料1の37ページ「⑦一時預かり」で、「一時保育が利用できず困ったことがある」が46.5%で、利用できなかった理由として「施設がいっぱいで断られた」が82.1%。40ページ「⑧子育てリフレッシュステイ」も、「施設がいっぱいで断られた」が71.4%である。つまりは、「支援を求めて利用できなかった」「制度が十分活かされていない」ということである。これを解決するのにどういう方法があるのか。また、同じ40ページで、「⑧子育てリフレッシュステイ」を「近くになかったから利用できなくて困った」の回答が0人だが、これはなぜか。

●事務局

- ・子育てリフレッシュステイについて、市内の児童養護施設、乳児院、ファミリーホーム、母子

生活支援施設で行っており、施設数としては十分あると認識している。市内各地に点在しており利便性もあると思われる。ただ、アンケート回答者数が9名と非常に少ないため、「近くになかった」を選ぶ人がいなかったと思われる。0～2歳児は、乳児院か一部のファミリーホームでしか預かることができないため、「利用できなくて困った」という意見があったものと考えているが、今年度より専従職員を配置する補助制度を導入しており、利用率も向上している。

児童養護施設については、一時保護委託を受けてもらっている。児童相談所の定員50名枠がいっぱいということについては、状況を見ながらできることがないか検討していきたい。

○委員

- ・里親は、ファミリーホームは利用できる対象になっているが、子育てリフレッシュステイの利用対象にはなっていないのか。また、一時保護委託は利用しているか。

●事務局

- ・里親は住所等を出すことが難しいためリフレッシュステイの対象になっていないが、一時保護委託の利用は可能である。センター機能を作つてマッチングを促進したいと思うが、制度を設けるより、児童養護施設が13施設と他にもあるので、そういうところで対応できるのではとも考えられる。

○委員

- ・施設が近くにない人にとっては、もっと預けやすい方法を考えられないかと思う。

○委員

- ・資料1の「⑤大学連携」について、25ページの利用頻度が、2022～2023年はグラフの数値が似ているが、2024年は急に変化している。一方、27ページの増やしてほしいサービスを見ると「今までよい」が多いが、このデータをどう見ればいいのか。子育て支援事業が他にもたくさんあるから利用者が固定化しているということなのか。各大学もこのデータを見ると思うが、市として大学側に何か要望等を伝える機会があるのか。

●事務局

- ・利用頻度については、2024年から「週1回未満」の選択肢を追加したため、2023年以前と数値が異なっている。
- ・昨年より、ひろばを運営している大学関係者との情報交換の場を設けている。大学と市が連携して利用しやすい施設にしていきたいと考えている。

○委員

- ・現状、ショートステイやレスパイトできる施設がなかなかない。対策の一例として、福岡市と北九州市では訪問看護ステーションの看護師を管下に、行政がお金出し、利用者の自宅で何時間か留守番をするサービスを始めているが、子育てをしている家庭の緊急時等に、ステーションから保育士を派遣することなどは考えられるのか。

●事務局

- ・レスパイトについて、今年度からは福祉局が担当となっているが、今年度は充実していると聞

いっている。

- ・産後のホームヘルプサービスがある。もともと産後1年までというところを産後2年まで、親だけで育児するのが難しい家庭の場合に利用してもらっている。ただし、保育士ではなく訪問介護のヘルパーが派遣され、家事・育児の支援をしている。

(2) 「神戸っ子すこやかプラン 2029」の検証アンケートについて

●事務局

資料 2 により説明。（省略）

○委員

- ・こどもにも意見を聞く予定はあるか。
- ・経年比較で検証するデータのため、質問項目を大幅に変えない方がよいが、加えるとしたら「他の人に薦めたいか」など、横のつながりを把握できる項目を設けるのもよいと思う。

●事務局

- ・こどもたちの意見を聞く機会も設ける予定である。具体的な手法や内容は未定だが、個別テーマを決めてアンケートで聞く、こどもが集まる場で聞くなど、具体的な方法を検討して実現させたい。

○委員

- ・これまで紙のアンケートに記入してもらい、乳幼児健診の問診票と一緒に持ってきてもらっていたものを、アンケートをwebフォームに変えることで、一連の流れにならなくなり回答数が落ちるのではということだが、回答した最後の終了画面を工夫して、次の指示が書いてあるとか、一連の流れにし、「最後まで回答した上で問診票を持ってお越しください」とするなど、電子でも必ず回答してもらえる工夫を凝らすと良いのではないか。
- ・web回答にすることで、こどもの声を聞くこともできると思う。
- ・2024年までと比較する場合は今まで通りのアンケート内容で良いが、内容を変えられるのであれば、幅広く子育てに関係する人や祖父母など、さまざまな世代や立場の人を対象にすることもできると思うので、ぜひ検討してほしい。

○委員

- ・アンケート体系は乱すべきではないと考えるが、利用者の満足度のところは、子育て支援施設や事業を利用したことによってこどもがどう変化したかが掴めると、今後の子育て支援施策を考える上で参考になるのではないか。利用者だけでなく、施設担当者に聞くのも手段として考えられる。

●事務局

- ・誰にどういった方法で、どのような項目を聞くのが良いか、手法については今後考えていきたい。

○委員

- ・追加のアンケート項目の意図は理解できるが、「お子さんが、多様な経験ができていると思いますか」「こどもの意見を聞く環境が整っていると思いますか」という設問は、アンケート対象である3歳児の親が答えられるのか疑問に思う。学童期の保護者や学校の先生に聞いた方が良い内容かと思うので、もう少し検討してほしい。

●事務局

- ・ご指摘の通り、確かに3歳児健診の保護者に聞くにはズレがある内容と感じた。子どもの年齢に応じ、場面や対象に適した質問内容を検討したい。

○委員

- ・自身の子（双子）の1歳半健診の際、問診票とアンケートを記入することにすごく負担を感じた。オンラインになることはありがたいが、問診票は変わらず紙ならば、わざわざアンケートだけ回答するかは疑問である。懸賞を設けても、回答の質が下がる懸念がある。
- ・追加のアンケート項目2番の「お子さんが、多様な経験ができていると思いますか」について、感覚的には、休日にキャンプしたり海に行ったり、子どもが家族と一緒にいろいろと出かける印象を抱く質問だと思った。質問の意図にもよるが、例えば「日頃のびのびとその子らしく遊べていると思いますか。」とか「普段、外でいっぱい遊べていますか」などの方が分かりやすいのではないか。

●事務局

- ・質問の意図を改めて整理し、回答される方がその意図を掴める質問にしたいと思う。

○委員

- ・多胎児、里親、病児と、より細やかなクロス集計がとれないか。3歳児健診でアンケートをしているのは、それ以降で全体に向けてのアンケートがとれる機会がないからか。もう少しこどもが大きくなってからの方が答えやすいのではないかと思うが、その方法がないのか。
- ・療育センターについて、満足度が高い結果になっているのは分母が少ないからだと思うが、療育センターだけでは就学前のこどもたちが行く施設が限られている。どういう支援が必要か拾えるようなアンケートであれば良いと思う。

●事務局

- ・3歳児健診の際にアンケートを送っているが、それ以降は全体的なアンケートは行ってない。どういった形であればできるのか、今は具体的なアイデアがないが、検討したい。

○委員

- ・3歳児健診のほか、就学前健診で実施するのが良いのではないか。学校に行くまでの子育てを振り返る時期となる。また、アンケート結果を回答者にフィードバックすべきだと思うが、小学校だと、それを配布しやすい。

●事務局

- ・アンケート実施のタイミングやフィードバックについても検討したい。

○委員

- ・二次元コードを読み込むことが難しい人、ひとり親、外国にルーツのある方、日本語が十分でない方、障害のある方などに対し、どういった形でリーチするのか、負担の軽減とあわせて検討してほしい。

(3) 教育・保育部会設置要綱の改定について

●事務局

資料3により説明。（省略）

3. 報告

(1) KOBE◆KATSUについて

●事務局

資料4により説明。（省略）

○委員

- ・こどもを見守る人、人的資源は足りているのか、無償ボランティアなのか。
- ・質的なばらつきがあると思うが、条件、基準、研修があるか。

●事務局

- ・コベカツクラブの構成人員として代表者、会計、指導者の3名以上を登録条件としている。
受入れ人数に基づいた指導者の人数を確保してもらう。教育委員会としても団体の安定した運営に向け、教員・部活動指導者と活動団体をマッチングする「コベカツ人材バンク」を運用し、人員を確保するためのサポートをしている。
- ・安全管理、ハラスメント防止、熱中症予防、中学生への指導者としての接し方などの研修を受講しなければ、指導に当たれないとしている。

○委員

- ・ユースステーションでは中学校とのコラボも検討している。コベカツクラブに行かない子どもの居場所等、児童館や施設とのコラボなど垣根を超えて一緒にやりたい。

●事務局

- ・こどもたちが指導される立場ではなく、居場所的に活動する場を開放するコベカツもあって良いと考えている。地域の方々とレクリエーションと一緒に楽しむという形があっても良い。児童館で、中学生が小学生の遊び相手になるような活動を行うコベカツなど、様々な創意工夫のもとコベカツクラブが立ち上げられている。コベカツとして排他的な考えはないので、柔軟に相談してほしい。

○委員

- ・ユースステーションは20時まで開いている。児童館も延長すれば19時まで開館しているので、中学生とこどもが一緒に過ごしてもらうこともしている。コベカツクラブでなくてそういう場所もあることを伝えているが、市でも広くアナウンスしてほしい。

●事務局

- ・コベカツクラブに参加しないこどもだけでなく、コベカツクラブによっては18時頃から活動が

スタートするところもある。その活動までの居場所としても、ユースステーションの存在はありがたい。関連する情報のアナウンスについては、こども家庭局とも連携したい。

○委員

- ・保育園もトライやるウィークで中学生が来たりしている。

保育園もコベカツに参加できる制度なのか。

●事務局

- ・コベカツクラブの運営主体として、特に制限はないため、参加可能である。

○委員

- ・指導者は有償かボランティアで実施するのか。

ボランティアだけでやっていくことはないと思われるので、補助金的なものがあるのか、税金の投入の仕方を教育委員会がどのようにするのか不鮮明であるし、それをわかって募集しているのか。スポーツ安全保険についての細かいところも知りたい。

●事務局

- ・指導者の報酬については、教育委員会から基準の提示はしておらず、各コベカツクラブの中で設定してもらうこととしている。

会費設定についての質問・相談があれば、一定の指導者報酬も想定したうえで、可能な限り低廉な価格となるよう、ある程度の目安を参考に提示し、個別に協議している。

- ・クラブへの支援については、様々な方法があると想定され、来年度予算に向けて検討をしている。

- ・スポーツ安全保険（1年間800円）について、学校から活動場所、もしくは家に帰ってから活動場所への移動どちらも、（合理的な経路をとった場合）対象になると保険会社に確認をしているところ。

○委員

- ・来年9月からで1年切っているが、費用について心配している保護者は多いと感じる。

もう少し早く詳細をお知らせしないとあとで大変なことになるのでは。

- ・学校の先生、保育士を雇用する際、必ず一定の検索をかけて、性的なこと、虐待などしていなかった等調べており、国でもシステムが整備される予定であるが、コベカツの方にもそういう対応をするのか。

スポーツに関してはプロでも、指導者としてはアマチュアの方もいるので、保護者はすごく不安なのではないかと思う。

第2回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見要旨

○ 子育てリフレッシュステイについて

サービス内容は満足度が高く、利用者はある程度助かったと感じている反面、「利用できなくて困った」が77.8%に上る。その理由は「施設がいっぱいで断られた」が71.4%となっている。実際、当施設にも遠方の区からわざわざ問い合わせがある。児童養護施設等が可能な範囲で受け入れをしてはいるが、入所児童の状況や職員配置、部屋の空き状況等で、どうしても断ることもある。特に感染症の流行期や一時保護委託を多数受けている時期は受け入れが難しく、利用者も困ることが多い。施設側の「受け入れられない現状」を把握し、受け入れ先が確保できない時の市としての受け皿を検討する必要がある。

○ 学童保育について

夏休みのみの利用と昼食提供サービスについて詳しく聞きたい。希望数に対応できる体制になっているのか。

○ 就学前健診について

3歳児健診のように「学校現場での実施」ではなく「行政として区での実施」にできないか。兵庫県内でも行政が指定した場所で実施している市町がある。神戸市は政令市であり対応は難しいかと思うが、法律では行政の責任で実施することとなっている就学前健診が、学校現場で実施されることになった経緯を教えてほしい。

○ 乳幼児健診時の保護者アンケートについて

就学前健診でのアンケート実施を提案したが、1歳半・3歳児・就学前の計3回、待ち時間に設問数を絞って実施してはどうか。各年齢の悩みや支援だけでなく、うれしかった支援や子育ての楽しさを「誕生時・現在・未来」の視点で問う形が望ましい。日々忙しい子育てでは忘れてしまう事柄も多いため、こまめに回答してもらう方が具体的な内容につながる。

○ 神戸っ子すこやかプラン2024の検証について

各施設種別に「地域の親子との交流」という項目がある。小規模保育・事業所内保育・家庭的保育は、園庭開放もなく地域子育て支援の給付もなかったと記憶しているが、調査の目的は何か。保育所・認定こども園は理解できるが、他3施設について調査したのは、回答次第で「地域子育て支援」の事業実施を検討するという期待につなげるためか。

○ 神戸っ子すこやかプラン2029市民アンケート案について

「こども誰でも通園制度」に触れていない理由はあるか。また、急増する外国籍の子どもたちの保護者が理解できる内容のアンケートや、障害のある親子など多様な人たちに寄り添うアンケート作成は可能なのか。

○ 資料4「コベカツ」について

- ・本来、環境に関わらず平等に部活ができていたが、月謝制や交通費負担により経済的理由で「入りたいのに入れない」子が出るのではないか。今の部活を続けたい子が継続できなくなったり、近隣に希望する部活がなかつたりと、コベカツを選択しない子も増える。その子たちの居場所はあるか。
- ・体力低下が続く中、コベカツ推進でさらに拍車がかかり、健康が損なわれないか。これまで学校対抗で行われてきた市総体や県大会はどうなるのか。
- ・新たな試みであり、わからないことに対する「不安」が強い進み方になっている。これまで区大会→市大会→県大会と学校単位で勝ち進む形だったが、市が先んじてコベカツを始めた場合、県大会等での市代表校の扱いはどうなるのか。
- ・制度の切り替わりに対し、内容が分からず不安を感じる保護者が多いため、周知・説明の強化が必要である。

○ こども誰でも通園制度について

来年度も7月スタートと聞いたが、6月からのスタートは検討されないのである。

○ 防犯カメラ設置の推進：斜面地や入り組んだ通学路に不安を感じる家庭が多く、事故・誘拐防止のため積極的な設置を求める声がある。

○ 病児保育併設園の拡充：キャリア再形成のため進学を希望しても、急病時の呼び出しリスクで断念する保護者がいる。救急搬送レベルではない体調変化に対応できる併設園の整備が必要。

○ 岩岡地域の公園と保育園不足：遊具の老朽化や低年齢児向け公園の少なさが指摘されている。また地域内の保育園不足により他地域まで送迎している現状があるため、新設を希望する。

○ タブレット学習の見直し：学習のしづらさや視力低下、学力低下への懸念から、端末学習の縮小・見直しを望む意見がある。